

長野県飯山市旭町遺跡群

北原遺跡



1979・2

飯山市教育委員会

調査の概要

飯山旭地区の圃場整備事業は昭和48年度に始まった。北信土地改良事務所の計画に基づけば、昭和55年度に旭地区全域が完了することになっている。その対象面積は138ヘクタールである。昭和52年度は旭地区北部が主として行われた。その折に弥生式中期、平安時代の遺物、遺構が検出されたが、種々の事情により調査されることなく破壊されてしまったのである。このような事態は文化財保護の面からすれば黙視される筈がなく、昭和53年度の事業実施にあたっては、十分に調査をした上で施行することとなったのである。

調査は、昭和53年4月26日に開始し、7月10日に完了した。この調査を通して私達は、当初予想もしなかった鍛冶炉址遺構群とそれに付随するものと推定してよい井戸址の発見という大きな成果を収めたのである。

千曲川が信濃に残す最後の平が飯山盆地である。盆地は千曲川によって二分され河東地域は木島平とよばれている。河西地域は、飯山市街地地方から戸狩地区に向って走る長峰丘陵によって二分され、東側は常盤平、西側が外椽平と呼称されている。長峰丘陵は弥生式遺跡が濃密に分布することで古くから知られている。

外椽平の西縁は開田山脈によって画される。開田山脈は1,000m内外の低山脈であって信越国境となっている。それ故にこの山脈を通して古くから上越地方の物資が奥信濃地方へ運ばれ、人々の交流も盛んであった。いうなれば開田山脈は上越地方と奥信濃とを結ぶ重要な交通ルートであった。それを裏付ける峠道が幾本となく存在している。しかし、近代の交通革命は、それらの歴史を過去へとおし流し、峠道の存在も人々の記憶から消え去ろうとしている。

外椽平は、奥信濃の穀倉地帯として知られている。それは、平の中を迂余曲折しながら流れている広井川の肥沃な沖積土の堆積に基づいている。この広井川の源が旭地区に存在する。

遺跡は、飯山市大字旭北原にある。外椽平の南部に位置し、水田地帯よりは若干の差をもつ微高地上にある。東側には県道曾根一藤の木線が走っている。この県道に沿って集落が点在する。遺跡の南には広々とした水田が展開する。この水田は周囲を微高地に囲まれており、排水が悪く湿地である。遺跡の南端には、県道より分かれて開田山脈へと向う小道がある。地元の人達によれば、往時越後への交通路であったという。

発掘調査面積は、約2,000㎡である。なお調査中に調査地点の東北約100m距てた谷地状の水田地帯で遺物と遺構が検出された。この地点は、今回の調査の対象外の地帯であったが、急提調査を行なった。従って、調査は二地点にわたった訳である。便宜的に本来の調査地点をA地区、谷地状の水田地帯をB地区とする。

A地区の遺構、遺物は平安時代中期に相当する。B地区の遺構、遺物は鎌倉時代かそれ以降のものとして推定してもよいと思われる。

A地区 遺構は、住居址2、土城42、井戸址2、裳棺墓1、掘立柱の建物址と推定されるもの2である。

住居址 1号住居址は、530×410cmの隅丸長方形のプランを呈する。壁高は最大で22cm。土器の出土量は少ない。柱穴は4本である。住居址の一部は、掘立柱の建物址の柱穴によって一部切ら

れている。2号住居址は430×340cmの隅丸長方形のプランである。壁は明瞭でない。住居址内には焼土と灰が充満していた。土器の出土は少ない。

鍛冶炉址群、土壇42のうち明確に鍛冶炉址としてよいのは25である。いずれも黄褐色土層を掘り込み土壇としている。土壇の平面形は①円形、②楕円形、③隅丸長方形に三大別される。その他に長方形、不整三角形のプランを有するものもある。このうち円形のプランをとる土壇に鍛冶関係の遺物が比較的多く認められるようである。土壇中より土器が多量に出土する。その中でも坏の多いのが目につく。

井戸址 1号井戸址 平面形は135×125cmの円形である。深さは黄褐色土層面より計って230cm。井戸中より土器片、木製品、樹皮等が出土している。23号土壇を切って造成されている。

2号井戸址 平面形は225×200cmの不整円形である。底に向うに従って幅をせばめている。深さは黄褐色土層面より270cm、150cm位までは土器、羽口、鉄等が多く出土した。底にむかうに従って木製品が多く出土した。木製品は例外なく刀物によって加工された痕跡を明瞭にとどめている。木製品の中でも文字を有するものが出土したことは特記すべき事柄といえよう。桶底と推定できるものである。国学院大学教授樋口清之博士の御教示によれば、文字を焼印したのち更に彫ったものと思われるとのことであった。1号、2号井戸址とも掘り進めてゆくうちに水が多く湧出してバケツ、ポンプ等を使用して作業を行なった。従って現在でも井戸の機能を充分にもつことが判明した。井戸の壁面には何等の施設もなく、素掘りの井戸址である。木製品、土器片、鉄、羽口等は井戸廃絶後に投入れたものと推定される。

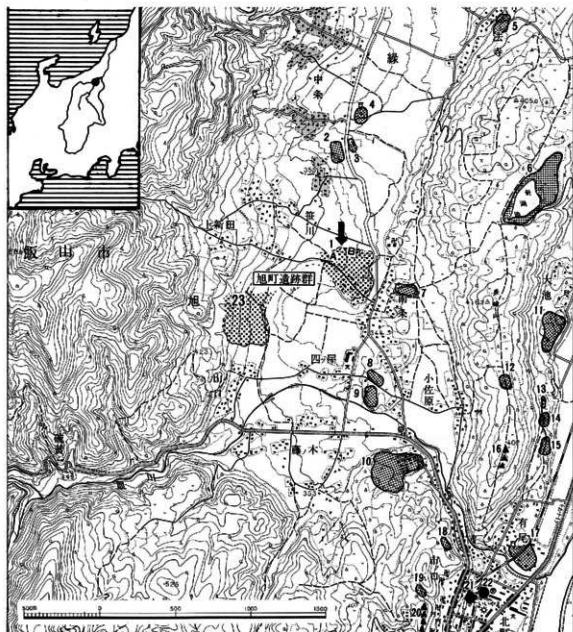
B地区 4ヶの土壇が発見された。1号土壇は、平面形が180×175cmの円形。深さ54cm。曲物、木製鎌と思われるもの、矢板等の木製品が出土した。

2号土壇は125×115cmの円形。深さ61cm。曲物、漆器、桶底等が出土。3号土壇は110×90cmの楕円形。深さ100cm。柄と思われる木製品が出土。4号土壇は120×110cmのほぼ円形。深さ45cm。木製品出土。これら4ヶの土壇は井戸址と推定してよいと思われる。この井戸址より若干離れて石臼、摺鉢等が出土した。

以上の調査を通して、私達は平安時代中期に相当する鍛冶炉址群、それに関連する井戸址、住居址等の遺構や土器、鉄、羽口、木製品等多岐にわたる遺構、遺物を検出して大きな成果を収めた。今後これらの遺構、遺物について鋭意究明してゆかねばならないと考えている。

末尾ながら種々と御教示御指導たまわった国学院大学教授樋口清之博士、同大学講師永峯光一氏は衷心より謝意を申し上げたい。

(高橋 桂)



第1図 北原遺跡の位置と周辺遺跡の分布図 (1:25000)

1. 北原 2. 別府原 3. 笹川 4. 布施田神社 5. 法寺 6. 針尾池 7. 鶴巻 8. 鬼ヶ峯
9. 城ヶ端 10. 須田峯 11. お茶屋 12. 長峰 13. 長者窪 14. 林子畑 15. 黄金石上
16. 有尾古墳群 17. 有尾 18. ガニ沢上 19. 大型寺池 20. 神明町裏古墳 21. 北飯山
22. 北町 23. 鍛冶田 (54年度調査予定地)



グリット設定図(A区)



遺跡遠景(西より)



遺跡近景(南より)

発掘風景



発掘が開始されシャベルで表土を剥ぐ。



竹べらで注意深く土器を掘りだす。



1m方眼に水糸をはり、遺構の平面実測を行なう。



集中豪雨のためにたまった水を消防ポンプでくみだす。



平板実測で全体図を作成する。



土盛保存が決まり、各遺構に砂を入れた。



A区(南侧)全景

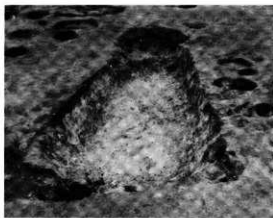


調査風景

遺構



1号土坑



17・18号土坑



北側遺構確認状態



20号土坑



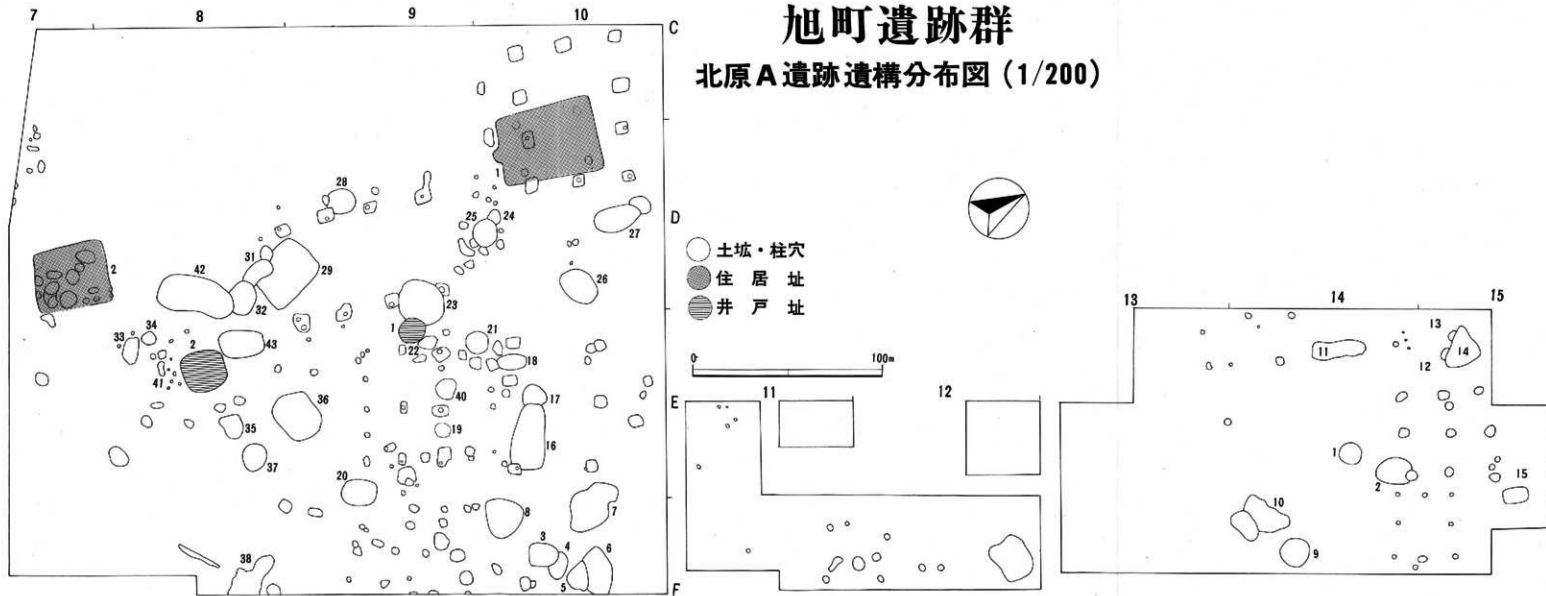
26号土坑



33号土坑

旭町遺跡群

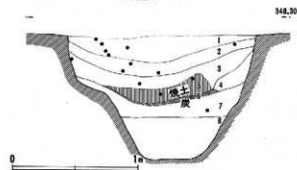
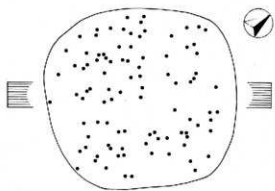
北原A遺跡遺構分布図 (1/200)



鍛冶炉址

鍛冶炉址及び鍛冶に関係すると思われる土坑は約25を数えるが、その中でも9、19、40、42号址は比較的良好な遺存状態であった。

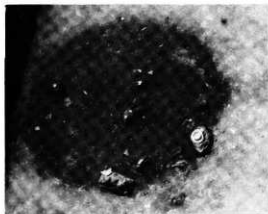
9号土坑



9号遺物分布図

層位説明

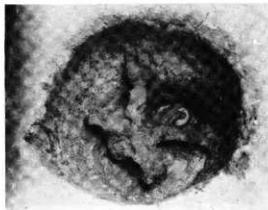
1. 黒色土
2. 暗褐色土
3. 黒色土
4. 褐色土
5. 焼土
6. 黒色土(炭化物含)
7. 黄褐色土
8. 青白色粘土



遺構確認状態



遺物出土状態



焼土堆積状況

遺構

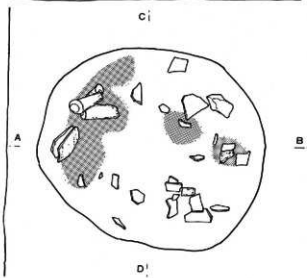
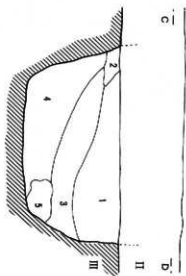
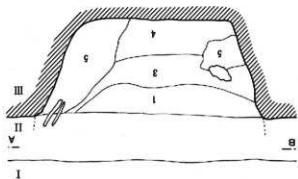
19号土坑



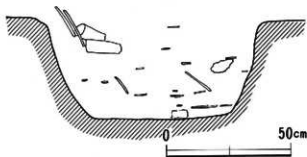
遺物出土狀態



羽口出土狀態



348-40



19号遺物実測図

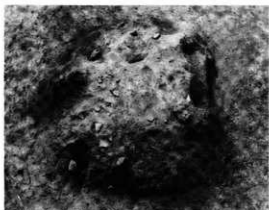
層位説明

1. 黒色土
2. 黒褐色土 (焼土混入)
3. 黒褐色土 (焼土・粘土粒混入)
4. 褐色土 (粘土混入)
5. 粘土

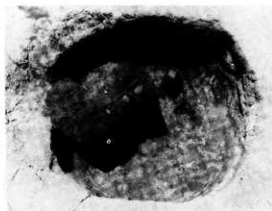
遺構

40号土坑

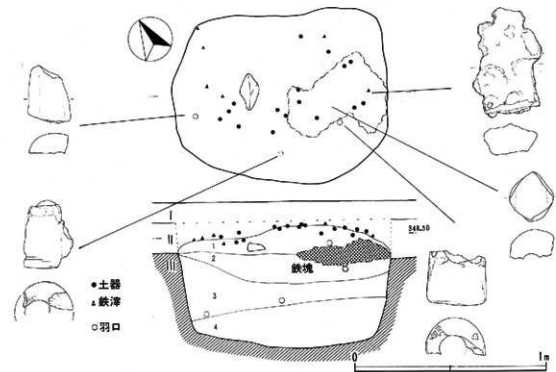
19号土坑の西、柱穴を間にはさんで位置する。鉄塊としたものは、化学的分析を行わなければ明確に判断を
下せないが、所謂スラグと称すべきものであろう。



遺構確認状態

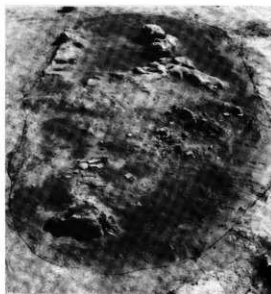
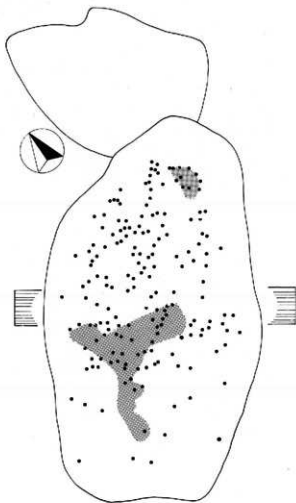


鉄塊出土状態



遺物分布図

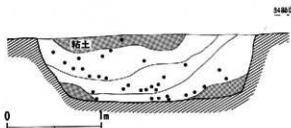
42号土坑



遺構確認状態



遺物出土状態（確認面）



42号土坑遺物分布図



遺物出土状態

遺構

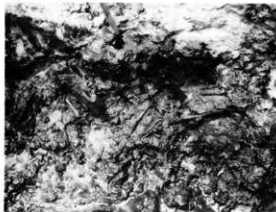
井戸址

1号井戸址 23号土壇を一部切る。確認面より約1 m下において10cm前後の層厚で粘土が貼ってあった。

2号井戸址 墓棺墓の北1 mに位置する。十字字にセクションを残して掘り進めたが、水が湧出してきたために、土壌サンプルを取りながら掘り進めた。



1号井戸 木製品出土状態



1号井戸 樹枝出土状態



1号井戸



2号井戸 (上部) 遺物出土状態



2号井戸 (上部) 遺物出土状態

2号井戸



2号井戸 木製品出土状態



調査風景



2号井戸

遺構

合口甕棺



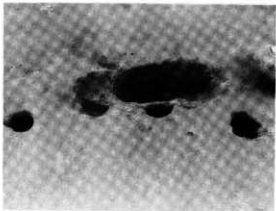
出土状態



実測風景



甕棺内部状況

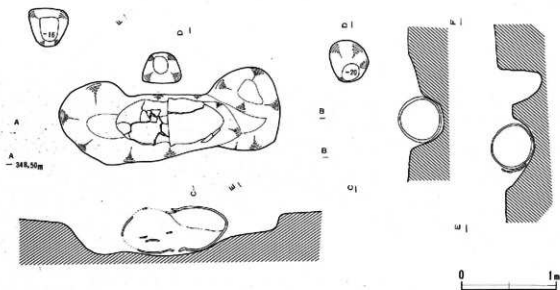


土塚



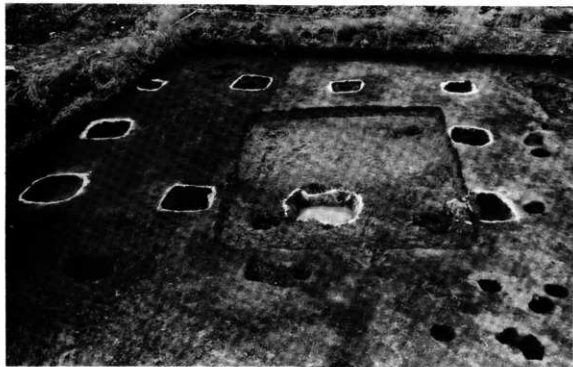
出土土器





合口雙墳墓実測図

住居址



1号住居址及び掘立柱建築址 1号住居址が掘立柱建築址に切られている

遺構

B地区



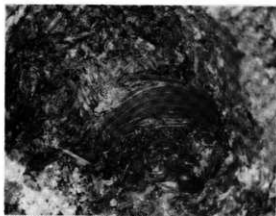
B地区近景



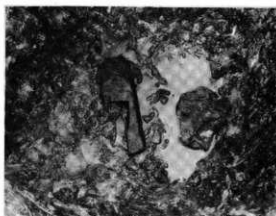
調査風景



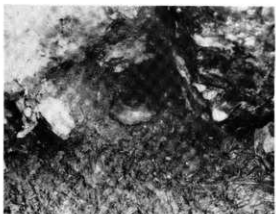
遺構検出状態



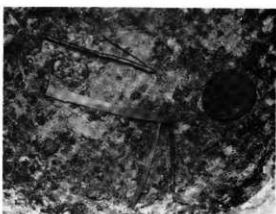
1号遺構 曲物出土状態



1号遺構 曲物出土状態



2号遺構 漆器出土状態



2号遺構 曲物 桶底出土状態



4号遺構 遺物出土状態



5号遺構 石臼出土状態

遺物

土器



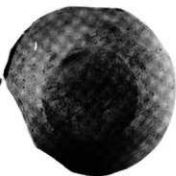
坏



ヘラ記号

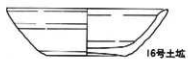
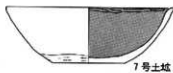
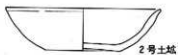
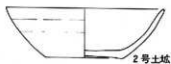
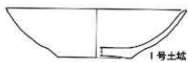


墨書土師器

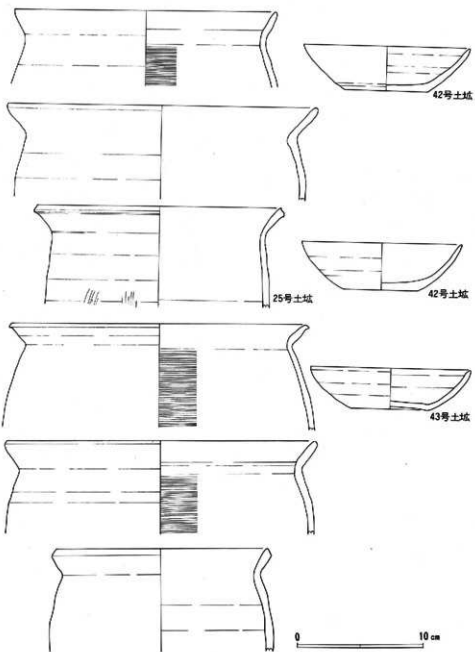


遺物

土器・坏



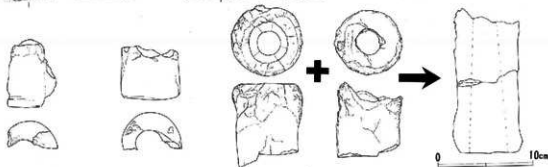
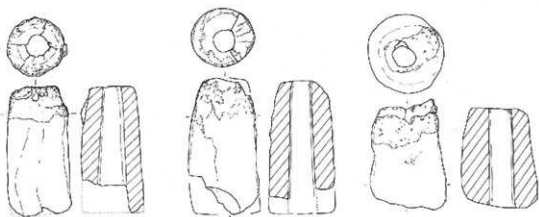
甗·环



土製品

羽口

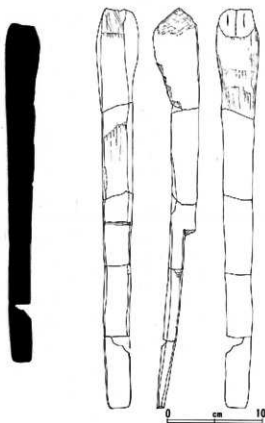
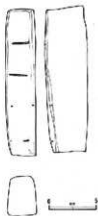
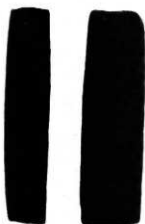
出土点数は約80点。製作方法は棒状の芯のまわりに粘土紐を5～6本を貼りつけ、後に芯をぬいただけの単純な方法で仕上げている。先端は鉄の融解物が著しく付着している。平均計測値は全長13cm、径6.5cm。



羽口実測図

木製品

1号井戸

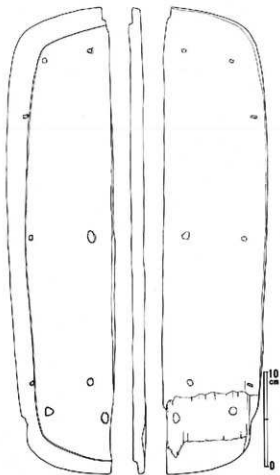


木製品

2号井戸



0 5cm

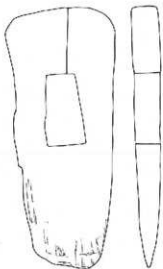


木製品

B地区



1号土坑



同左実測図



1号土坑
曲物

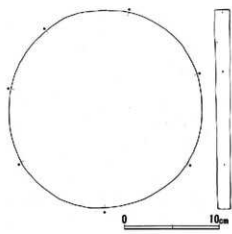


外側



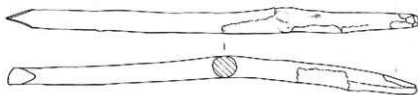
内側

B地区

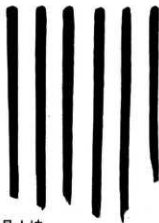


2号土坑

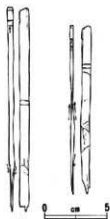
桶底 同左实测图



3号土坑

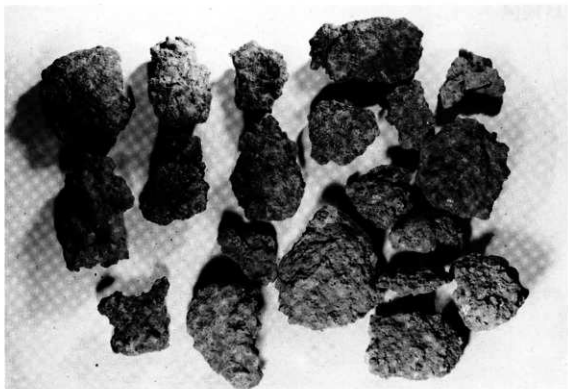


4号土坑

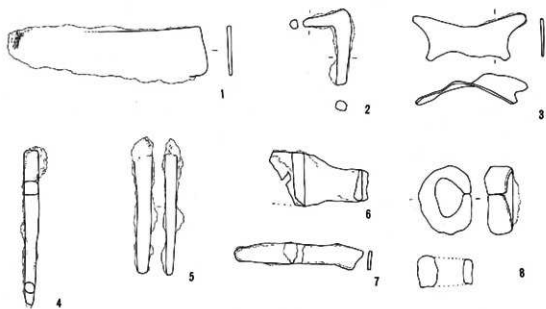


同左实测图

鉄滓・鉄製品



鉄滓



鉄製品実測図

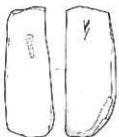
石器・石製品



砥石
2号井戸



1号土城



打製石斧



B1号土城



石臼



同左実測図

飯山市旭町遺跡調査会組織（職名は当時・敬称略）

顧問	春日佳一	（飯山市長）
“	井上慶誠	（飯山市公民館柳原分館長）
会長	小林忠一	（飯山市教育委員会教育長）
副会長	浦野昌夫	（ “ “ 教育次長）
理事	佐藤政男	（飯山市文化財専門委員）
“	齊藤二六	（ “ “ ）
“	弓削春穂	（ “ “ ）
“	上原幸夫	（ “ “ ）
“	滝沢藤三	（ “ “ ）
“	高橋桂	（ “ “ ）
監事	宮沢忠志	（飯山市収入役）
“	松沢定男	（飯山市監査委員）
事務局	青木剛	（飯山市教育委員会社会教育係長）
		（調査団）
団長	高橋桂	（飯山北高等学校教諭）
調査主任	松沢芳宏	（日本考古学協会員）
調査員	望月静雄	（飯山市教育委員会嘱託）
“	今井正文	（立正大学生）
“	野沢則幸	（ “ “ ）
“	松沢伸一	（北信濃考古学研究会員）
“	金井晴美	（駒沢大学文学部歴史学科卒）
指導	丸山敬一郎	（長野県教育委員会文化課指導主事）
“	関孝一	（ “ “ ）

（作業協力者）

小島千代太郎、大塚勇、大塚泰一、大塚ふさ子、中島弘文、北川利之、北川三代藏、齊藤光直、中島信、阿部智子、阿部光子、阿部美登里、小林つね、渡辺すえ、飯山南高考古学クラブ、高柳保人、小沢秀秋（順不同、敬称略）

以上の方々のほか一々氏名を記せなくても多くの地元の皆さんから協力をいただいた。厚く感謝申し上げたい。

旭町遺跡群
北原遺跡
昭和54年2月

発行 飯山市教育委員会
長野県飯山市大字1110-1

印刷 三和印刷株式会社
長野県長野市川中島1822-1

